



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 100年人生のお金とのつきあい方

講演：岡本 和久
レポーター：赤堀 薫里

お金と心、つまり物心両面での 200%の人生、それが「しあわせ持ち」の人生ということです。200%の人生のカギは、意識の時間軸と空間軸を広げることにつきます。今だけでなく、将来のこと、更に自分の死後のことまで意識の中に入れておく。空間軸は自分のことだけでなく家族や親族、コミュニティー、所属する会社や、日本、世界、宇宙まで広がっていく。

我々の外側にある世界は常に変化していきます。お金や投資を深く考えていく上で、自分の内側の世界の時空を広げることは一つ重要なポイントです。

人生の目的は、お金持ちになることではなく、しあわせ持ちになることです。それはたぶん、みなさんも異論はないでしょう。同時にお金やモノも我々の生活をする上では必要です。しあわせ持ちの人生、物心両面での 200%の人生こそ我々の求めるものです。

100年の人生は3つのステージに分かれます。初めは「学びの時代」。この期間は人的資産として、自分で稼ぐ力を形成していく時代です。次の「働きの時代」は、その形成した人的資産を活用して金融資産に変換していく。仕事をすることによってお金に換えていく、金融資産の形成期です。最後の「遊びの時代」。金融資産を活用しながら生き様を形成していく。ロールモデルを見せてあげることで、次の世代の人的資産へとつながっていく。遊びということはつまり教える時代ということです。これが人生の3つのステージです。



お金は感謝のしるしです。仕事とは社会貢献と楽しみとお金が合体したものです。それでは、仕事で稼いだお金をどうやって使うのか。これがまさにハッピー・マネー®四分法です。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

お金の使い方は、「ためる・つかう・ゆずる・ふやす」この4つに分けて使う。これがハッピー・マネー[®]四分法です。

時間軸と空間軸で考えると「つかう」とは、今の自分の喜びのためのものです。「貯める」というのは、今の自分は少し我慢して、少し先の自分がより大きなものを買うことで、喜びを大きくしようというものです。「ゆずる」は、自分のためではなく、少し困っている人や世の中のためにお金を使っていく。人々に笑顔を増やして、それが自分の笑顔として帰ってくる。「超」マネー投資です。「ふやす」というのは、今すぐ使わないお金を、今お金を必要としている人や会社に使わせてあげる。その人がビジネスの種を植えて、出てきた会社という芽に、陽を当て、水や肥料をあげて大きな木に育てる。みんなから感謝されて感謝のしるしのお金がたくさん集まり、その一部がずっと将来の自分のもとに返ってくる。これが本来の投資というものです。

自分の出したお金が必要になった時、買い手がすぐに見つかり売却をしやすいするために取引所ができました。そこに株式市場が出来て、株価という値段がつくようになった。今、みんなはその値段しか見ていない。でもその根っこの事業という部分が一番大事です。大切なのはその企業の経済活動なのです。社会との係り合いなのです。

お金はご縁のネットワークを気付かせてくれます。板チョコ1枚 100 円の中に、チョコレートの製造から販売までに関わった労働や、働く人達の気持ちが全て入っています。これは、お金が築いているご縁のネットワークです。投資とは時間をどう使っていくのか、どう生きるかということです。お金や投資のことを幼い頃から勉強していくと、ご縁のネットワークの中で自分がどう生きていきたいのか気付くでしょう。

仕事とは自分のため、会社のため、お客のため、それが世の中のためになる。近江商人の売り手よし、買い手よし、世間よし、つまり三方よしです。世の中の為になる奉仕をすることが、本来の仕事です。そしてみんなから感謝されて収入を得ることができる。

投資という世界で考えると、投機は、個別銘柄を短期で売買する短期投資。会社を長期で応援する、これも投資の在り方です。でも一つの会社ではなく分散して投資する。この分散を究極まで進めたものがグローバルな株式インデックスファンドです。さらに資産運用があります。資産運用は自分のトータルの資産をどう育てていくか管理していくことです。

この後、講演では、将来の自分を今の自分が支える重要性を説き、3つの資産形成ステップについて説明。「働きの時代」と「遊びの時代」にすべきことや、人生を通じての資産運用について解説。資産活用とはいかに資産を幸福感に変えていくことであり、それは必ずしも金額ではないということ。最後に、時空意識の拡大が、幸せ持ちへの王道であることを教えていただきました。